



第30回全国中学生空手道選手権大会 兼
燃ゆる感動かがしま国体空手道競技リハーサル大会

令和5年10月7日(土)から始まる「燃ゆる感動かがしま国体」開催まで1年を切りました。本市では、8月26日(金)～28日(日)の3日間、総合運動公園総合体育館(サンアリーナ)で、来年に向けた空手道競技のリハーサル大会として、第30回全国中学生空手道選手権大会が開催されました。

- 一形**
たくさんの敵に囲まれている場面を想定して、攻撃と守りを一つの流れにした「形」を、選手が演じ、極めの正確性・気迫・技の緩急・表現力などを競います。
- 一組手**
1体で向かい合って試合を行い、蹴り、突き、打ちなどで攻撃し、「1本」「技あり」などのポイントで勝敗を競います。



▲形競技



▲組手競技



▲形競技

全国から約1300人の代表選手が集まり、形(個人・団体)、組手(個人・団体)の各種目とも熱戦が繰り広げられました。本市実行委員会では、来年開催の国体を想定し、県空手道連盟と連携した円滑な競技運営や来場者の皆さまへのおもてなしの内容などあらゆることをシミュレーションしました。また会場内に入場する際の検温や消毒、抗原検査の義務付けなど、新型コロナウイルス感染症防止対策を万全に行い、みんなが安心して競技ができる環境を整えました。今回のリハーサル大会を通して得た経験を生かし、本大会に向けた準備を進めてまいります。市民一体となって「燃ゆる感動かがしま国体」を盛り上げていきましょう！

国体PRジャンパー販売します！

販売・問合せ先/川内山形屋4階衣料品売場 ☎(22)4111
サイズ/M～XL カラー/白、黒
価格/2,400円(税込) 販売開始/11月下旬
※受注販売となる予定です。
※販売数はメーカー在庫限りとなります。ご了承ください。



▲背面プリント部分



▲左胸プリント部分



▲ホームページ

▲Instagram

「人のとなりに」とは…
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当ててを目的としています。

これえだ
是枝
まさふみ
政文さん

人のとなりに



入来地域に代々伝わる入来神舞(大宮神社例祭に伴う芸能)。今回は、毎年続けてきた伝統芸能を後世につなげるために、日々奮闘する保存会会長の思いに寄り添います。

入来神舞

入来神舞は、入来町浦之名に伝わる、大宮神社で毎年例祭(11月23日と大晦日)に奉納される伝統的な舞です。舞は全部で36番あり、22番目の「十二人剣舞」の中には国歌「君が代」の歌詞が記されているため、国歌の由来を見ることができるといわれています。藩政時代から祭事に関する家の子孫が代々神職と併せて神舞技術の修練に努めてきましたが、戦後神舞を知る多くの方が亡くなり、昭和33年、存続を危惧した当時の宮司(是枝さんの父)ら有志が神楽を伝習。以降現在まで引き継がれています。令和2年4月には県無形民俗文化財に指定されました。

憧れた背中を引き継いで

幼い頃から両親や地元先の輩方の舞う姿を見て育った是枝さん。鬼の面をつけて舞う「鬼神」の踊り手に憧れを抱きながらも、番、配役ごとに得意とする先輩方の後を継ぐことがなかなかできず、22、23歳頃までは舞人(剣士役)しかできなかったのだそう。憧れの鬼神役になったのは25歳頃でしたが、先代の踊り手である先輩方は既に亡くなられて

伝統を絶やさないために

保存会会長として頭を抱えているのが、後継者の育成だと答える是枝さん。地元の小・中学校を回って声を掛けるも、なかなか踊り手が集まらず、会員の高校生も、進学や就職を機に地元を離れる人が多いため、踊り手の確保が大変なのだそう。近年は、地域問わず呼び掛け、鹿児島市からの参加を含めた25人で活動していますが、伝承の難しさに悩んでいます。

一方で、鬼神や舞人を経験した多くの子どもたちは、地元を離れても舞を体覚えていて

舞を後世へ

これまで、どんな状況でも毎年続けてきた入来神舞。より多くの舞を本来の形で継承していくために、多くの方に携わっていただきたい」と話す是枝さんは、父が伝習し、代々先輩から続く伝統を後世につなぐため、日々奮闘しています。



▲入来神舞はYouTubeでご覧いただけます